

町花セッコク大切に

松島二小で80株植え付け

松島町の町花になって
いる東洋ランの一種「セ
ッコク」を子どもたち
も親しんでもらおうと、
同町松島二小で20日、校
内のクロマツへのセッコ
クの植え付け作業が行わ
れた。

仙台農協などでつくる
「松島・夢・農業農村活
性化推進協議会」が実施。
町内の育成施設「愛しん
ど松島」で、瑞巖寺の老
杉に着生しているセッコ
クを株分けし、バイオテ
クノロジーで増殖した3
年物の約80株を持ち込ん
だ。

大橋健男町長らと5年
生26人が、クロマツの枝
元にミズゴケでくるんだ
セッコクの株を丁寧に縄
で固定した。渥美大輔君
(11)は「セッコクの苗は
コケでふわふわしてい
た。大事に育てたい」と
話していた。

セッコクは木や岩に着
生して育つ。苗が順調に
着生すると来年にも愛ら
しい花が咲くという。

松島のセッコクは江戸
時代は名産品として献上
品にも使われたが、乱獲
で激減した。協議会は2
000年から松島湾内の
島や松島海岸の観瀾(か
んらん)亭にセッコクの
移植を続けており、今後
は町内の学校に広めてい
く予定だ。



大橋町長が小学生と一緒にクロマツの枝にセッコクの株を植え付けた